



Title	講義案 : 東京都立大学
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1959
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77297
Type	manuscript
File Information	K024_0134.pdf





TRADE MARK

NOTE BOOK

清義 啓

都立大学

昭和31年秋

TOKYO SANBI NOTE

支那の概況

日本の経済的勢力は、支那の人口の増加と共に、日進月進して、日本は、支那の経済的勢力の中心となる。日本は、支那の経済的勢力の中心となる。日本は、支那の経済的勢力の中心となる。

一、支那の概況

一、支那の概況

一、支那の概況

一、支那の概況

支那の概況



農家より都市へ

- 一 アメリカ人の人口五分類
- 一 大衆より強き者へ
- 一 農家人口の漸増
- 一 税関の漸増
- 一 未知人等國境の漸増
- 一 義税等五種へ
- 一 系統時より隱りてへ
- 一 人と人との關係より機關へ
- 一 機關の關係へ
- 一 直系家族より旁系家族へ
- 一 防衛國より清防四者へ
- 一 都市職と職業分類へ
- 一 東洋の地位

自 然 的 社 会
 村 々 々 々
 家 族 的 社 会
 都 市 的 社 会
 人 間 的 社 会
 藝 術 的 社 会
 自 然 的 社 会
 村 々 々 々
 家 族 的 社 会
 都 市 的 社 会
 人 間 的 社 会
 藝 術 的 社 会

自知村の歴史を概観

三村の合併を機に

昭和十一年のうちに三村を合併し

昭和十一年のうちに三村を合併し
1923(14)

昭和十一年のうちに三村を合併し

昭和十一年のうちに

昭和十一年のうちに

村松を以て都府と行ふ地は

一、自然村松を以て都府と行ふ地は

集團の第一に行政を分割する

所。私は自然村を一般に都府と

行ふ地とす。その二、ある村を以て

それは江戸時代の行政即ち都府

と行ふ地とす。その三、ある村と

ては、自然村を以て都府と行ふ

の目的は旧村とす。その四、ある

は。然し又旧村は自子の共同家族

團體である。故に、ある村は

旧村で江戸時代の團體である。

ものが自然に成る。最大の問題は
それと成る。私が行く。私を電報
して。それと成る。それと成る。
それと成る。

二 都市の歴史

都市の歴史は、行政系統の基盤としてその
発展決定の上に都市の発展を決定し

て来るといふことを述べておきたい。

私は都市を政治と経済と行政の三つの
文化史的な力から見て、政治的
的力と見ておきたい。

都市は政治と経済と行政の三つの

力から見ておきたい。政治的力、経済的力、行政的力。

政治的力、経済的力、行政的力。

政治的力、経済的力、行政的力。

政治的力、経済的力、行政的力。

か
ろくろの陸軍部は、あつたし、今
市民の力に防衛の力に結成し、
郷に居るもの、その利権を、
あつたもの。

近世に入つて都市がその巨大なる、
急ぐ成長せし、
や凡小集の、
治力は、
あつたもの。

都市は、
政治の力に、
し、あつたもの。

都市の政治を政治、市町村の政治は政治、
区は都市と互の外部と区制を最
後の境界線とする。

口宋と云ふ政治体は、口境を
線が如何に政治体を劃断して居る
か吾人の知る所を述べて置かう。

思ふ民衆の先づ第一は、口境を
統一体によつて同一の同一口境の

人々の子孫即ち同一口民衆をなす
ことである。その中に文化も

パルナリヤも、何れも同一の型
と云ふべきものである。政治力を

政治に

はかしくも境身命を二座に宿すの事
ないを考へるも古代聖賢にからんて
偉力を考へるも又古賢に然るる
才徳を認得したる聖賢に宿る
原形に在りて一の故にともて致す

しれどもと考へるも
甲乙又と考へるも

座にせしむる
秩序を結ぶ
政治であるを
政治であるを
政治であるを

せしむる力か、今視てあろうか、
力であるか、任仰てあろうか、
同じくはたして、
視てはたして、

當てもなく死んで行く者がある。

監獄でも彼等の死を待たない。

尸を食う者もあつた。やがて死なぬ。

修徳屋忍ぶが苦しむ。何故か。

皆その支那者が被る死だ。

同族政治か。同胞をいかに。

万人の死を同一の命に賭す。

死なぬ。死なぬ。死なぬ。死なぬ。

にかくの死や。死なぬ。死なぬ。

死なぬ。死なぬ。死なぬ。死なぬ。

死なぬ。死なぬ。死なぬ。死なぬ。

死なぬ。死なぬ。死なぬ。死なぬ。

死なぬ。死なぬ。死なぬ。死なぬ。

り反対する人々であつた。かゝる人々も、昔に
反対する。5%の人々を反対して、それを賛成
するものは勢力を失つてゐる。それゆゑに
勢力を失つた人々を、^{レニ}賛成する。少くも用意して
万民を指導する。村長は政治以外
にはない。人々が
都市の繁栄に必要である。秩序ある
政治の力を必要とする。場を
ある。

形を弱くして其の二あるが、そのほゞ
として、能力を示して、其の代りである。
部落自治会の所有形、部落自治会
神の村、此の今、此の、此の、此の、
此の、此の、此の、此の、此の、此の、
指導、方向を示して、此の、

農村指導、此の、此の、此の、此の、
の、自主性の、此の、此の、此の、
有、此の、此の、此の、此の、此の、
ある、此の、此の、此の、此の、此の、
農村指導、此の、此の、此の、此の、
此の、此の、此の、此の、此の、此の、
此の、此の、此の、此の、此の、此の、

たけなすなりと私は思ふて居る。

又忠村調子も部族の界隈とす

るゝが絶好に仲要つてもさう合理的

で有り便潔である。其思ふ所。

私生活も小等の意味を充分に感得

する為には餘り部族の独立感と

自主感を部族民にも感得する

所々に充分に知らしむるべき事。

故に私は拙多姓と自主感を十分

感得する所と云ふのである。其れに大

部族民への注意指導下も調子が

漸次改行するものと云ふ所。

我々の國混成を特に出地草とよび
部落の自主性を独立は比較的な
位置留してあることは然る中であ
るが余脈を感ずるはあると見ゆ。
當時者の私の本の内容を改定する
点に於て批判するのには充分なる
材料。けれども本に記す構造的
は今の所五のオに於ては十分の
もの程である。

氏神と村落の相互性

村の中心に鎮座する氏神は、その村落の本元

とす。それとしての意味を持つた存在とな

か。この本質は、たがう村の気神を

自主的のものとして、その支配や干

渉には、それよりも、むしろ、それと

氏神以外のものとしての、村落は

上級の政治的権力と何らかの形で結ば

て居る。村落は、それなりの統一性

強い自主性自律性を持ったと見えて

と解は、それ。

先づ氏神文化の中心として、村の氏神が

とせしめたと云ふ史実は同かた。主権^もの
な定^りず^るも、毎^らく^のれ^を、安^ん革^くかある
筈^はな^らい^様に^思ふ。其^のは^思ふ^が現^れる^所と
思^ひか^して^可い。

有^りて^は、其^の社^の祭^のの^権力^のの^勢に^打落^の氏^神
も、其^の他^のものも、自^らを^性は^余り^なら^ない。
孫^のの^おお^じと^いふ^が、何^れに^も其^の配^をは^何の
み^んと^んな^らず^に、^{（其^のは^思ふ^がある^が）}落^の氏^神に^要求^す
し^期付^した^れ也。其^の氏^神に^何か^恐い^す
き^何れ^があ^らむ^の様^に考^へて^は、^{（其^のは}孫^のと^いふ^が）
私^の氏^神と^いふ^は、其^の氏^神に^比し
と^他氏^神は^有り^ない^と思^ひか^して^可い。男^神と

かせ神とか多の莫一神とか初めは神々
か、時には不潔を招き、神をよこす
あるか、そんなるは強ど、どうでもよい、
あつて、村人等の切なる祈りを傾けて
同オてく小ものか、氏神である。善惡
の行動や正當なる善惡を別け、道に導き
成す、稗に協力して、力が村人等の心
にうつて、民神、いふと、どんな政變の
者にも、少しも変うな、悦橋をもつた神
である。そんな神を信するもの、いかに
為政者は、干渉しなれば、なうめと、いかに
あるか。

田中(文)の如く民精神のみに神に
 同して奉るに力に神の干渉をしないこと
 そのみに神を祀る時脱帽するを指導
 若原さん、又地方行政が社格を認め
 その供奉に示し、祭料をせした。
 彼等の人が供奉に参するの祭は一層
 盛大になり賑やうな感じをもたせ
 彼等の内、参り神の祀をせそのめ
 やして、参る人ばあまゝ、却て
 参るを同いてくれよ、と氏神と
 いふが、参る。然し氏神より、
 新堂の参る。神も参るにあつた。

政治的に

村松が支配され、立場に於いて、自ら
然る自他性を念じ、たゞおまのばあさん
たゞ、中央の支配とは村松の自他性自
律性をあさへ、必要があつた場合
あり、あつたが、一般の村松のりつと
ところ、只平安生活する、その為の自他性
物事する、必要など、これ、たゞ、あつた
有、たゞ、自ら、自他性と、たゞ、りつと
何と、たゞ、りつと、たゞ、りつと、たゞ、りつと
交差、たゞ、りつと、たゞ、りつと、たゞ、りつと
たゞ、りつと、たゞ、りつと、たゞ、りつと、たゞ、りつと
は、たゞ、りつと、たゞ、りつと、たゞ、りつと、たゞ、りつと

村の命令で出たものだから、物質的に

も、^{文化}精神に^{文化}申込でも、自然自正は必要

な生活様式であつた。

要するに、~~物質を制限する~~、何故に物質

を制限する必要があるのか、原因の追究

して、その結果は強いていふと、自然

主義の主張は、強いていふと、自然

主義の主張は、強いていふと、自然

主義の主張は、強いていふと、自然

主義の主張は、強いていふと、自然

主義の主張は、強いていふと、自然

主義の主張は、強いていふと、自然

[illegible]